

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和5年8月末	令和5年11月末	令和6年2月見通し	令和6年5月見通し
-56トン 〔2051千トン〕 (97.3%)	-40千トン 〔2011千トン〕 (98.0%)	+14千トン 〔2025千トン〕 (100.7%)	-8千トン 〔2017千トン〕 (99.6%)
2129千トン (103.8)	2029千トン (100.9)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和5年9月末	令和5年12月末	令和6年3月見通し	令和6年6月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,800円。前期比-1,200円。建築分野も夏の猛暑の影響で人手不足等による工期遅れ、計画見直し等が散見。スポット的な中小物件は若干出たが、全体的な需要が潤うまでには至っていない。まとまった量の物件では安値が散見。流通は価格維持に尽力した。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,100円。前期比-700円。多少なり荷は動いたようだが、秋需の盛り上がりは全くなく例年になく低調であった。少ない需要の中、在庫は多くないが、過剰ぎみに感じられている。中小建築案件は相変わらず少なくとも大型物件は資材高騰や人手不足により延期や中止も出ていた。	市場の様子はあまり変わらない。建築物件はある程度出てくると思われたが、年度末を迎えても人手不足や資材高騰により中小建築案件は引き続き低調。メーカー値上げが表明されたが、年度末における駆け込み需要の兆しもない。市況は下値に底打ち感があり、下げ止まっているが、上値は横ばいのままである。需要低調のまま年度末を越しそうである。	メーカー値上げの波が押し寄せてきており、我々二次流通では輸送費、人件費等を含めた価格転嫁の姿勢を示していかなければならないだろう。但し、中小物件だけでなく大型案件も出件の端境期となっており先行きも需要の盛り上がりは見込めず、期待がもてない。今後も需要が少ない中で、流通は需給環境に関係なく、仕入上昇分は勿論のこと諸経費を含めた価格転嫁を進めていかなければならない。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

1月の仕入量は144,165トン前月比-13.1%、前年同月比-1.4%、販売量は140,361トン前月比-9.5%、前年同月比-4.8%。前月比において仕入量は著減、販売量は減少、前年同月比において仕入量、販売量ともに減少となりました。在庫量は222,760トン前月比+1.7%、前年同月比+2.5%、在庫量は前月比、前年同月比ともに増加しました。在庫率は158.7ポイントと上昇しました。年が明け、1月は更に荷動きが悪化し販売量は伸びませんでした。流通は仕入量を抑えましたが、それ以上に需要がなく在庫量も増加しました。

4. 大阪

1～3月、建築・土木はそれなりに動いている。紐付きが出やすい状況。需要は芳しくないが流通も値上げ方向にもっていかないと先行き不安。

自動車関連は、相次ぐ認証不正問題による出荷減少が、1月からは統計データからも表れ始めている。

4～6月の見通しは、自動車関連は、徐々に出荷停止が解除されているものの、まだ出荷停止が解除されていない人気車種もあり、自動車業界全体にどのように影響していくのか不透明であり注視が必要。

全体的に見通しは良くない中でのトピックスとしては、万博関係の引き合いでパビリオン名が出た具体的な見積もりが増えてきており、4月以降の需要に期待したい。